

やぱり、おっつてるじゃないか……

【栖別冊】from KEY THE METAL IDOL



ver.16

# 「遂行」

21世紀のバグ?同人誌世界の逆オーバーパーツ出現。

“出す!”発言から幾星霜。人生最大のブラフという定説を覆すロボ子本がまさかの完成。

栖—sumika—レーベル誕生30周年記念作品

(偶然だ)ここに堂々リリース!



## 1995年に考えた帯コピー

編者初の表紙だけDTP他、ホントは「天地」なLOSERと「エヴァ」なポッター・F。限定解除だCBオーシマ等、95年のニュースな奴等が描く「マジだぜ!」なキイチちゃんBOOK。限定12部・贈答用。



LOSER MUTO



RFUJIMOTO



O-SHIMA



EMU'95

当時33歳なのに……33歳なのにイ〜



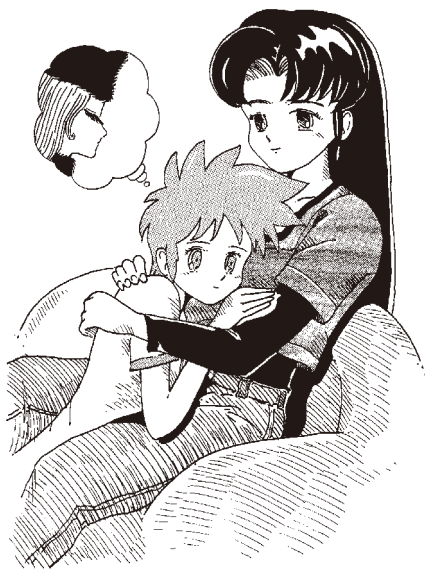
c o n t e n t s

01 インタロダクション…… LOSER MUTO  
02 おーしまんが…………… オーシマ  
12 イラスト…………… P.藤本  
16 えむまんが…………… EMU'95  
20 テキスト…………… EMU'95  
24 あとがき…………… EMU'95+EMU12

まえがき

●一度でいいからオタク本を作りたいと思った95年。今年最初のトピック。YUMIHARISTAZO発行の「SLIVER RING」へ寄稿して、P1ターの自分をなくさめた95年。「チャチャ」が終わって、録画して観る。モンねえなと思ってる「ガンダムW」始まってビクリの95年。ジャレコの「ゲーム天国」とかで「プラスチック」が復活する95年。一「たく95年」てヤツは……そして「キイ」だ。なんと来年も染しめるでシリースだ。今、今しかない！とゆー、種別冊今世紀さい「のEMU」のオタク本。FROM KEY THE METAL IDOL STAFF だ。

信じてる  
信じてる……



自分の存在していない、または自分を主張しない人間を「ロボット」と呼ぶ事があります。

しかし、そう呼ばれている人でも、自分を「人間」と認識して生活しているはずですよ。

「キイ」は、つねに自分の事を「ロボット」といい、行動しています。

街中を歩く時、部屋の中でじっとしている時、いったい彼女はなにを考えているのでしょうか？

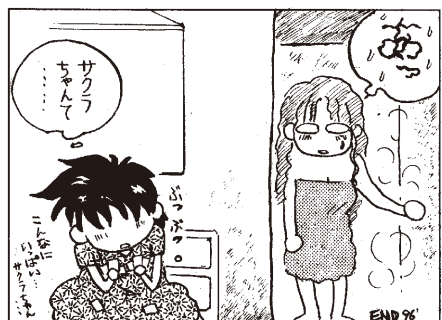
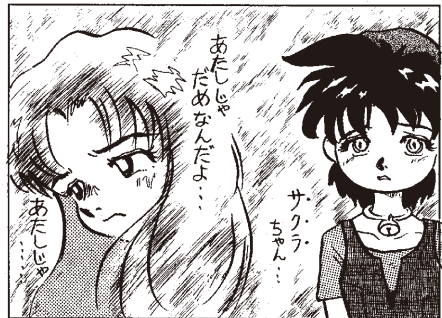
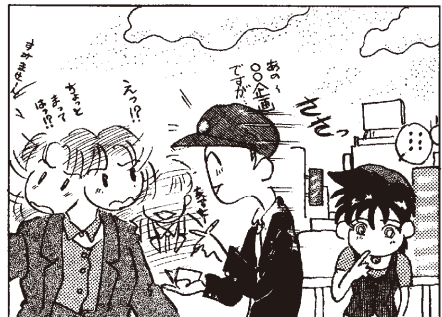
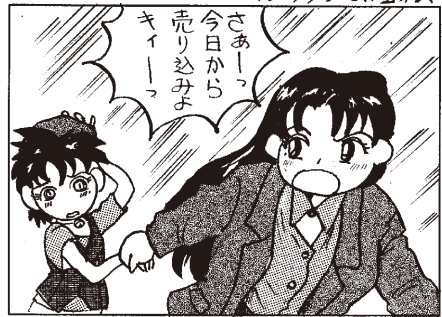
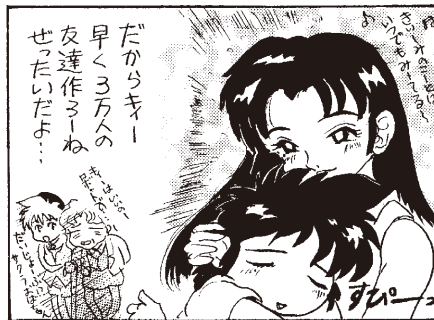
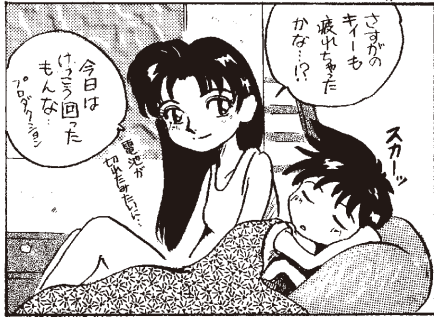
第三者が存在する場合「私はロボットだから、こうだ」的な反応が可能です。がひとり自分と向き合った時、

彼女の頭の中に存在する事柄は、想像も出来ない程恐ろしいものだとおもうのは、考え過ぎでしょうか？

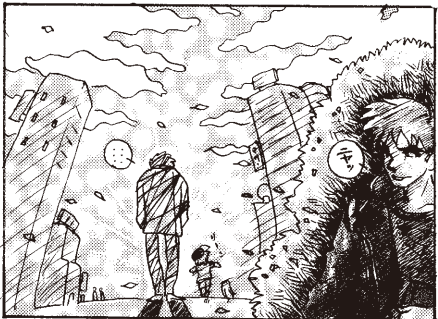
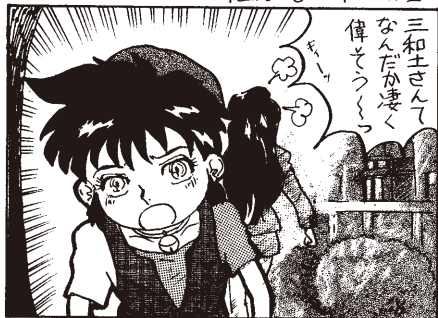






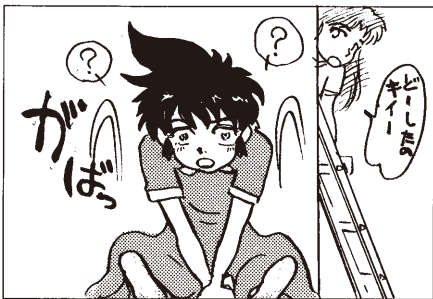
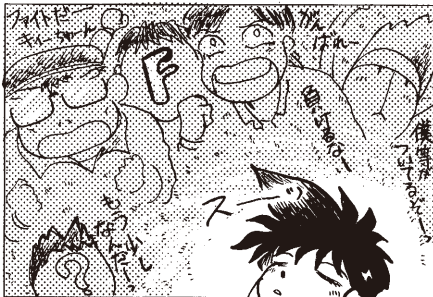


「心める三和とさん」

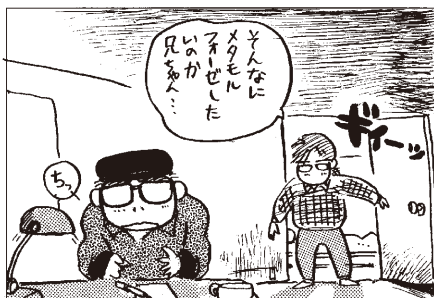
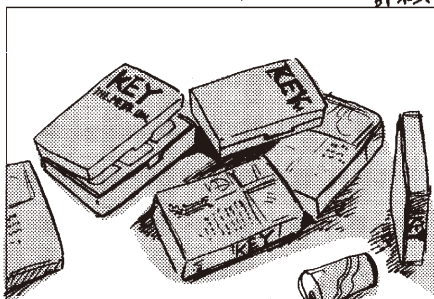


END 96' オオシマ

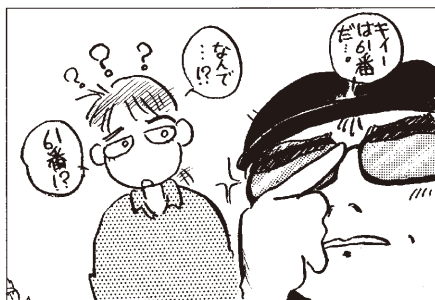
「みんな観てるよ」  
オオシマ



END 96' オオシマ



END 96'

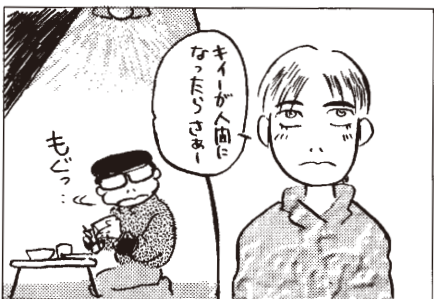
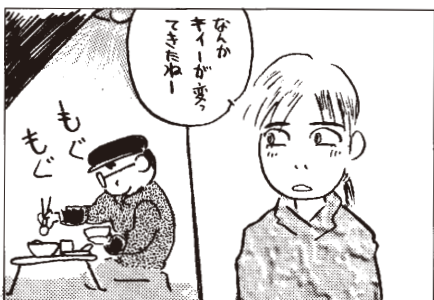
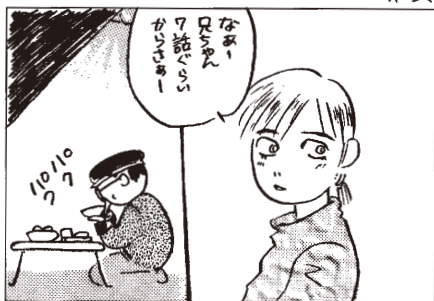


……

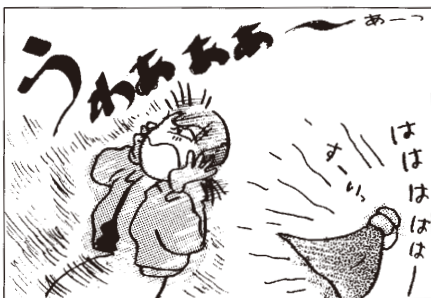
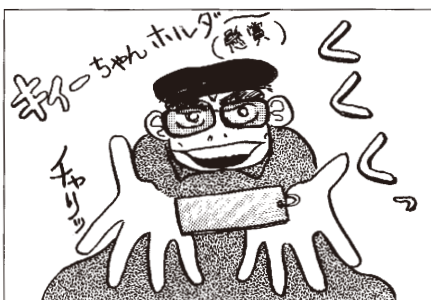
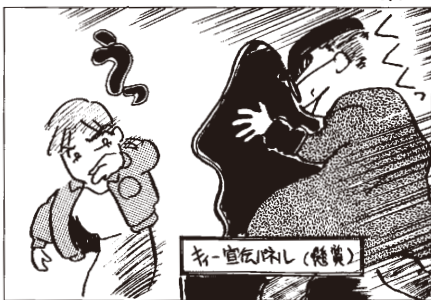
END 96' オニ

※ビデオケースに応募しがきが入っており、KEYグッズが当たるとい  
ものだった。そして兄ちゃん(ENU'95)が入手したのが、巻末に掲  
載したKEYホルダー





END 96' オニマ



END 96'

※1コマ目の懸賞品は表紙に使用したイベント用POP。「メグ」というアニメ雑誌の創刊プレゼントで兄ちゃんが当てたもの

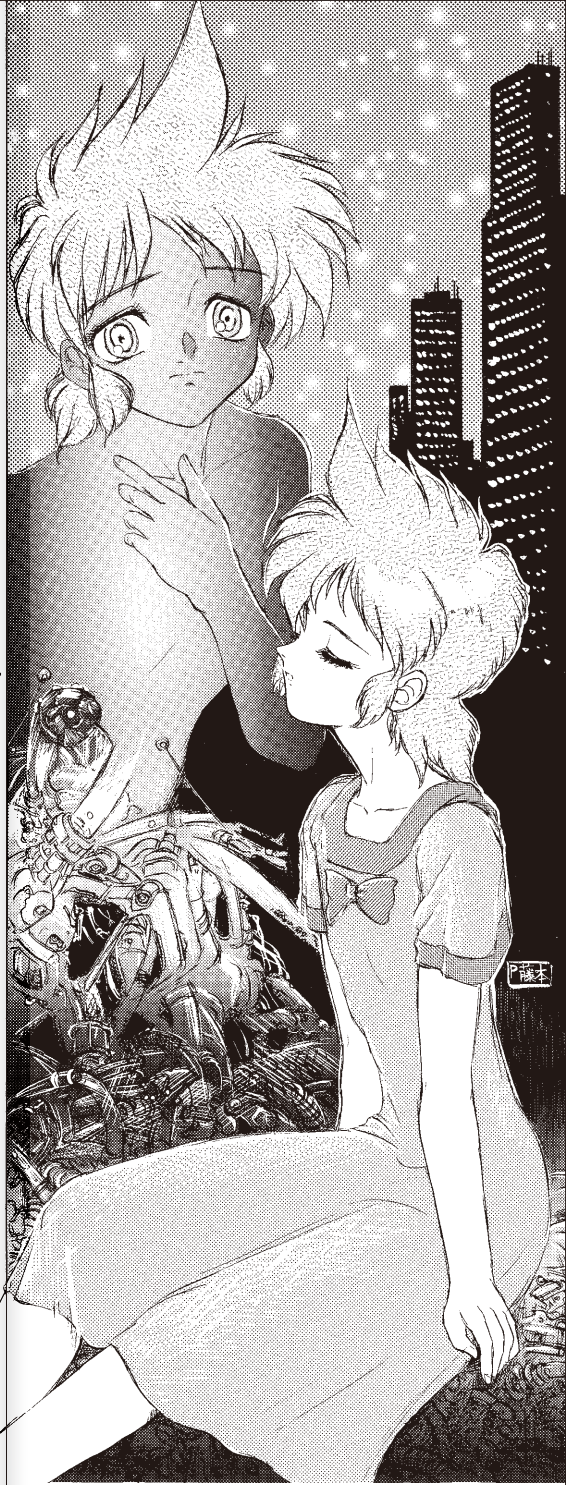


早く2部でHEYY水  
歌を歌うところが見たいしゆ。

藤本



ぴちぴち  
これで  
水にぬれても  
OK!



藤本



●「自分をロボットだと思ってる女の子が主人公なんですよ。」と、テープを貸してくれたMUTO君は言った。

「ああよくある戦う美少女アニメかあ〜」くらいの気持ちでいたねプロモ映像が始まった時にゃあ、「あーこりやあ……」モンだったし。それをひっくり返したオープニングはお見事だねえ。機械と化した街や、キイがバーンと弾けてしずくになっちゃうカットは、いいシーンだと思うね。

のタイミングで現れたお話という所に、今回の『キイ』本を作る根本があると、まず書き残しておこう。そんな訳で(何が?)ひとりで作るにはあまりに心細いので勧誘なんてしてこの本は作られた、疑似同人誌ともいえよう。断っておくが、参加してくれた人は『キイ』はイケるーと表明した者なんで強要じゃないぞ。

●本編について

こりやもうなんべんでもゆーが、キイちゃん喋りに尽きる。

かんそう

# いつの間にかあとがきを書いている『キイ』についての記事

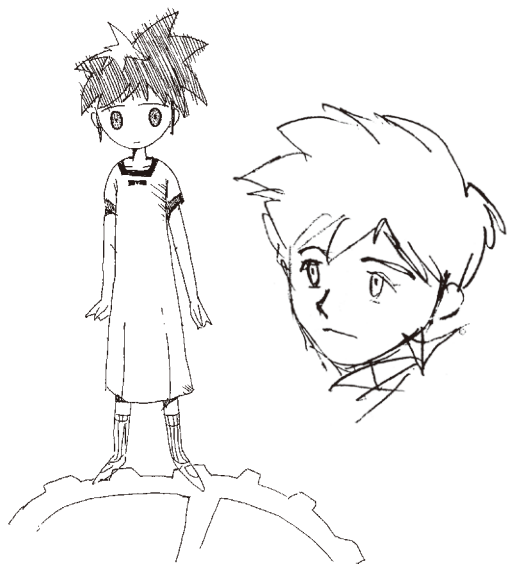
text: EMU'95 cut: EMU'95, O-SHIMA & LOSER MUTO



●表もいが好みから言えば、エンディングがグツと来て惹かれるのだよな。これは貴島サリオって人の歌がお話に摺り合っている為の相乗効果の表れだ。ささくれだった心にはジーンとくるんだこれが。オープニング、エンディングとも夜が舞台でエンディングのラストが夜明けで閉じられるのが象徴的なんだが、全巻(第1期)通して夜に物語が進行する。

●ちょうどバイトの切れ目近くで観た(95年4月。4巻まで出た)んで幸せになりたい指数が上昇期でもあり、自分探してゆーか人間になりたいロボット少女の行く末を暗示する始まりと終わりの映像に同調してしまったのだと思うね。

●だからってモノでもないが、『キイ』は地味ーに作ってくれないかなと、繰り言をまだ言っている。救われるお話って味が、現在の俺には必要なんだ。『キイ』は正に絶妙



●作品の半分はキイのキャラクタリーに負う所大である。虚弱キャラにあの喋りかた。ポヨンでチャッチャのさくらちゃんを隣りに配して、なおのこと浮き彫りにされるヘンな加減が、新鮮に映る楽しさよ……だから、人間に近づいてくうちに喋りに感情入り始めるもヤードなことだと思ってる。無垢な響きとゆーより面白いんだ。あの喋りがね。巨大企業が開発中のロボットと制御装置開発に巻き込まれて

いく主人公といった側面は他の作品でやってくれないかし、まあ思ってる訳ですわ。

●んー素直なファン心理を描けん所が限界を感じるんだが小学生時代のキイを苛めたガキ共、殺す!と、パン通で流してる人にあるストレートさに欠けまくってるからな。

部分だけ拾ってゆくと、インチキ法力坊主蛇目王子の語る金目教素晴希講縁起が説得力あって、全然描象的話な所がまたイカガワシクテヨロシイ

ネ。ロボットと宗教は意外としっくり来る。感情の所有が人と機械の接点だから、キイが時々発動する（この単語使えて♡）変な力も超常力とかゆーのだろうか。会話のやり取りだけでも愉しめる押井守を引き合いに出すのもなんだが、オープニングでハツタリ効かしている分、説法説きまくって物語をかき回してもらいたいもんだ。

●穏やかなアニメってえとマジカルエミの『蟬時雨』（19

●なお、本文の最後は、自らの怠惰を込めて、作成時の原文をそのまま残す事にする。

### 最初に書いた文章

●実際、キイの声を担当している岩男潤子という人もどんな経歴の人か知らないし、知ろうともしないから素人だったりする訳だ。アニメオタクの看板背負うにはすごく醒めてもいるし多くの作品はジュブナイルの範疇で語られる事



87)」があったが、METAL DOLLでゆくなら、感情におけるどの部位を刺激してもらえるかにつぎる。従来作品とは違う部位を刺激するお話って事に惹かれるのである。社会とおり合う為の処世術でなく、生のまんま行動してアレな喋りってゆーのにまず一票だ。

●それにしても先の読めないお話だったな。キイとさくらちゃんが出会って、ちよいと気まづくなつてまた一緒に

暮らす。こんだけしか進んでないぞ。はたして、第2期シリーズで完結するのか？ 語るほど観倒してない事は事実であるけど。それでも頭の中で思ったことを物質化して記録したい気持ちの総量が今回の制作となつていった事は事実である。

●まあ、オタク本を叫ぶにはまだ若輩であるとゆー事を確認出来ただけでも、なにがしかの産物を収穫したとする事でよしとするか。



「キイ」

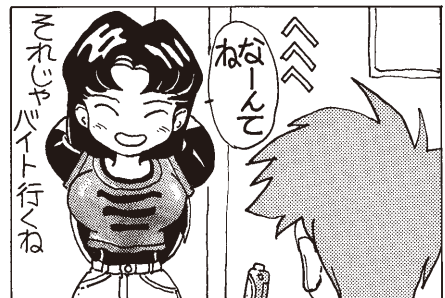
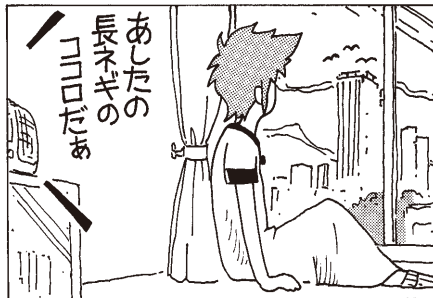
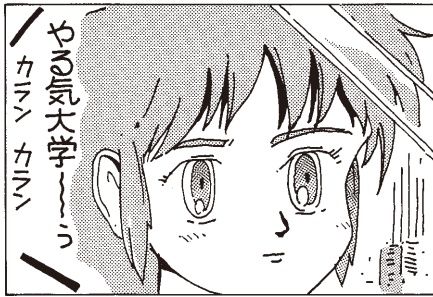
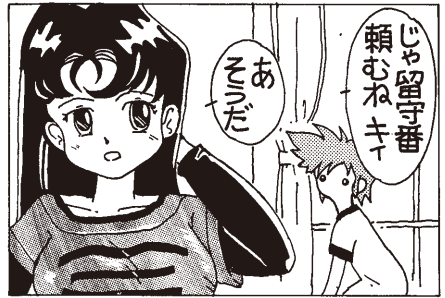
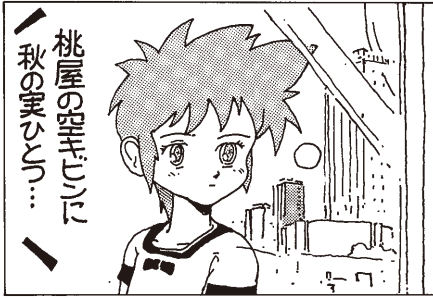


それは  
ロボット……

に納得する側である自分を認めて、ものであるしな。だが本を作る動機がまだある。予想と結果のズレを愉しんでいる節もある。天体の運行や『ガンダムW』の展開すら自分の行動に干渉し、すべへの

総体が本のカタチで納まる。それが1本のビデオシリーズに焦点を当てたとしてもだ。マニアックさに欠けるのは、こんな気構えて事にあたる自分の性向ゆえなのだろうか。

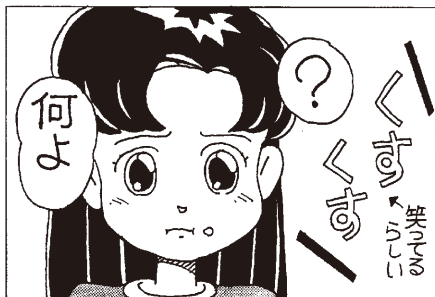
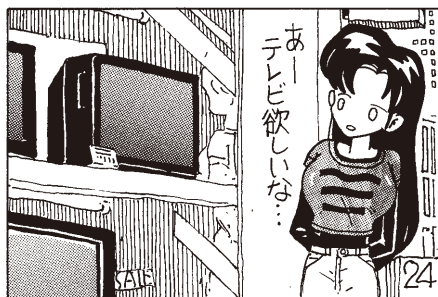
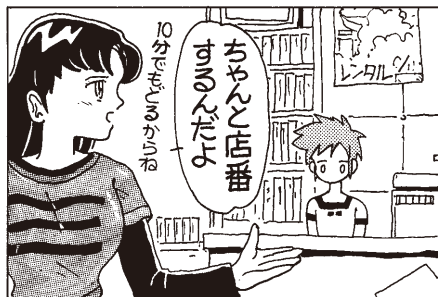




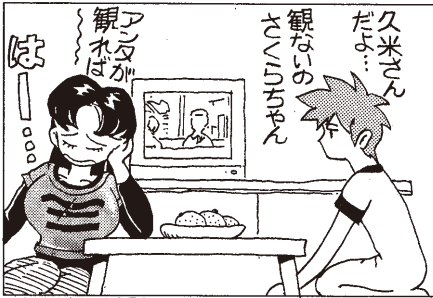
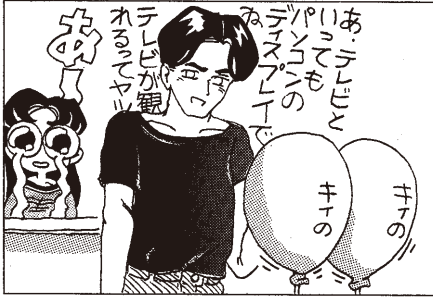
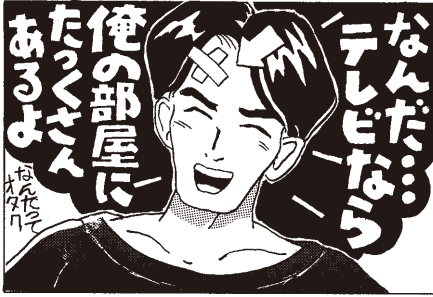
子エッ... やるなあ

負けないよ...

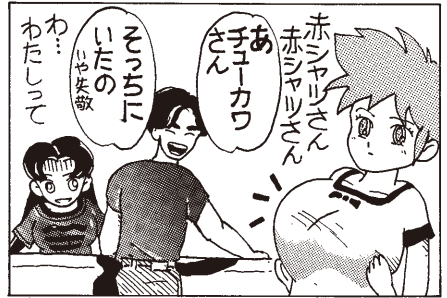
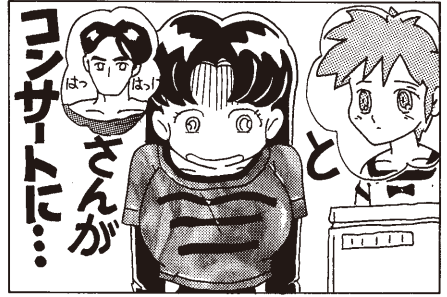




だってキイは...



だから キイは 観なくても観れるって...



ただのおっはい...？

# 編集後記1995

●あー終わった、終わった。もう今年はこれでいいや。“KEY本やるぞー”の発言に参画してくれた方々にまず感謝!カラオケで「IN THE NIGHT」を合唱できた空間は、二度とない時間の共有って事で大切にしておきますぜ(ホントは皆、エンディング唄いたかったのにな。カラオケ無いのは残念)。なんかメロウになってるが、30過ぎてオタク本、オタク本とハシヤク自分と、それを冷視する自分を身の内にかかえる俺に対して、なんかグズグズしたモノを掃き出せだと思ってる直後だからなのだ。——って、本が出来てから言えー(今日は10月10日)。さて、公約は果たせたかな。ワクワク♡←これが大人のやるコトかあ〜



# 編集後記2012

●最初に謝罪を。原稿引張り出して台割ぶってた時、MURIO氏の玉稿が紛失している事が判明。最低でも四コマを二本ないたいていたはず。掲載できずしめんなさい。そしてこの本自体も20世紀中に出せずタラタラといままで引張つてしまい、執筆に賛同していただいた諸氏には誠に申し訳ない。  
●レイアウトや未完成原稿のテキスト起こし、ペタやトーン貼り作業のぞき、掲載原稿は当時のままである。レンタル店からビデオテープが消え、電気屋の店頭にあるのは液晶テレビばかりな21世紀へのサルヘーリ作業……現在も非会社員で視聴当時もブーだった事を考えると奇妙な因縁を感じずにはいられない。  
●オシシマの原稿は本人が5年前にまとめたといいう周回遅れぶりが追い打ちをかけて情けない限り。不完全な状態の刊行で、心苦しいがお待ちせしました。このページまで開いてもらえば嬉しい限り。それではまた。



没表紙 1995年当時に作成 (Illustrator3.0!)



先行本 2007年3月に刊行された  
オシシマKEY本



KEYホルダー  
9~10Pにあるビデオ購入者向けの応募特典

## やっぴり、おこってるじゃないか…… from KEY THE METAL IDOL

2012年5月●日発行

発行者 EMU'12

発行所 SUMIKA

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

phone XXXX-XX-XXXX

website <http://lovetacos.main.jp>

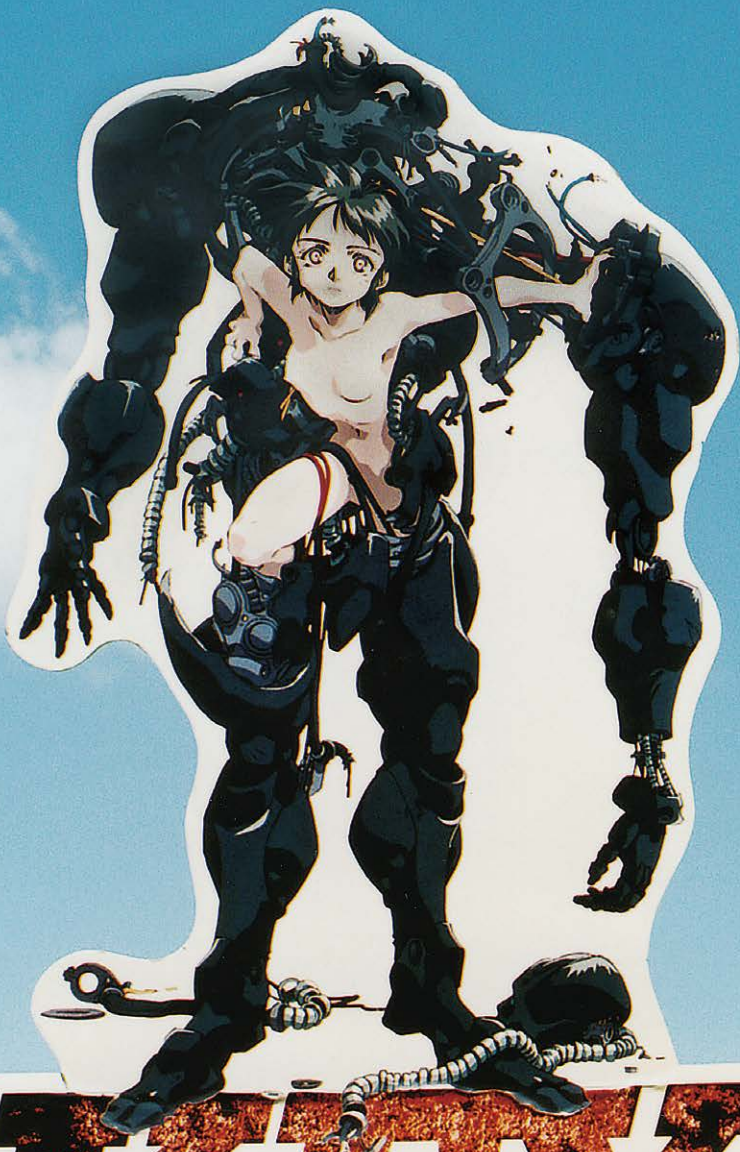
e-mail [poopera@tvs12.jp](mailto:poopera@tvs12.jp)

tools Adobe Illustrator8.0 / Photoshop7.0&CS5

Canon CanoScanLIDE210 / ALPS MD-5000







**KEY** #1  
**THE METAL IDOL**